

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 教育目標

- 確かな学力を身につけ、主体的に学び考えることのできる知的探究心にあふれた人間を育成する
- 心も体も健全でたくましく、社会の担い手にふさわしい知性と品格を身につけた心豊かな人間を育成する
- グローバル社会における文化の多様性を理解し、世界を視野に幅広く活躍できる人間を育成する

2 中期的目標

- 1 立命館コースの充実と強化
- 2 グローバルコースと体育科の多様な進路に応える進路指導体制の充実
- 3 主体的に学ぶ学習者の育成を目指す教育方法の改善
- 4 英語教育・国際教育の充実
- 5 理科教育・課題研究教育の充実
- 6 生徒確保に向けた入学政策・入試業務の強化

3 学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p>① 全国学力調査においては、概ね全国平均を上回る成績である。</p> <p>② 授業評価アンケートにおいては、年々評価が向上している。特に、中学高校とも理科の評価が過去 5 年間で 10 ポイント以上も上昇している。これは、優秀な教員の育成だけでなく、課題研究の導入や理科教育の強化対策の成果であると考えられる。今後は実験設備等の充実も考えている。</p> <p>また、いくつかの教科で生徒による主体的な活動の授業（アクティブラーニング）が実践されている。今後こうした取り組みを増やしていく。</p> <p>③ 保護者アンケートの結果では、中高ともに肯定的評価が多く、否定的評価は高校での「悩み相談」の 1 項目である。これに対しては、間口を広くして対応することや、「将来の志」へのサポートも大切である。</p>	<p>①委員会の体制 （学）立命館 常務理事 立命館大学教授 中学校・高等学校保護者会役員</p> <p>②委員会の実施日 平成 29 年 11 月 10 日（金） 平成 30 年 3 月 27 日（火）</p> <p>③自己評価の結果に対する評価 ・生徒の姿から、初芝立命館のイメージが良くなった。 ・立命館大学での初芝立命館出身の平均 GPA は上昇している。 ・課題研究については、アカデミックな内容が評価できる。</p>

4 本年度の取り組みと達成状況

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての改善策
1 立命館コースの充実と強化	(1)基礎学力の向上	(1) ①立命館コースの学力向上…理科数学教育の強化と英語トップアッププログラムの推進 ②コースの特色教育の充実…「課題研究」及びコース合宿の実施 ③新たな高大連携企画として、立命館 DAY(5/27)の実施 ④文章作成能力向上にむけた方策の検討	(1) ①TOEFL 五ツ木模試偏差値 ベネッセマーク模試偏差値 ②③は年間計画の中での実施 ④白藍塾による日本語文章講座の実施	(1) ①TOEFL の結果については一定程度評価されるが、さらに向上を目指す。 五ツ木模試・ベネッセマーク模試については、さらなる向上必要 ②中学 3 年課題研究冊子完成 高校 1 年の内部生クラスで課題研究及び発表会を実施 ④白藍塾による日本語文章講座を実施	・理科数学教育の強化と英語トップアッププログラムの推進 ・「課題研究」及び特化プログラムの推進 ・立命館 DAY の実施 ・論文作成の取組の推進
2 と体育科の多様な進路指導体制の充実	(1)国公立大学への進路実績の向上 (2)関関同立、産近甲龍への進路実績の向上 (3)体育科の現役進学実績の向上	(1)(2)(3) ①グローバルコース S の国公立大学進学者数向上に向けた指導の充実 ②入学から卒業までの学力推移の分析に基づく学力向上対策の推進 ③進学指導体制の見直しと効率的指導方法の確立及び指導者の育成	(1)(2)(3) ①国公立大学 関関同立大学 産近甲龍大学の合格者数 ②自習室の創設 センター試験の結果分析	(1)(2)(3) ①大学合格実績は国公立大学・関関同立・産近甲龍については昨年より大幅増加 ②自習室を整備 センター試験の結果分析研修会実施。今後継続的な学力分析必要	・国公立大学進学者数向上に向けた指導の強化 ・学力向上対策の推進 ・進路別スペシャリストの養成
3 主体的に学ぶ学習者の育成を目指す教育方法の改善	(1)確かな学力を育み、主体的に学ぶ学習者の育成	(1) ①ICT の活用…平成 30 年度中学 1 年生のタブレット PC 導入に向けた教員向け研修会の実施 ②新学習指導要領実施に向けた指導内容の研究 ③授業改善に向けた校内研修の充実…授業公開週間における、ねらいやテーマが明確な研究授業の実施	(1) ①中学タブレット端末と電子黒板活用 ③授業評価アンケートの該当項目満足度 保護者アンケート満足度	(1) ①中学タブレット PC 導入に向けた教員研修に参加 電子黒板は十分活用 ③授業評価アンケートについて 中学・高校ともに満足度上昇 保護者アンケートについて 授業満足度昨年より上昇	・タブレット PC 導入と授業での活用 ・新学習指導要領に対応した指導内容の実践 ・授業改善に向けた悉皆研修
4 英語教育・国際教育の充実	(1)4 技能のバランスがとれた高い英語力の育成 (2)英語教員の資質向上	(1) ①英語学習と校内プログラムとの関連付けの明確化及び附属校プログラムの活用 ②中学オンライン英語授業の導入 (2) ①4 技能型学習の外部研修会への教員の参加	(1) ・英語検定(高校卒業時) 2 級レベル 準 2 級レベル 3 級レベル ・英語検定(中学卒業時) 準 2 級レベル 3 級レベル	(1) ・英語検定(高校卒業時) 準 1 級の合格者を出すなど 2 級・準 2 級・3 級にも多数合格 ・英語検定(中学卒業時) 準 2 級合格・3 級合格者は十分目標達成 ・オンライン英語授業実施 (2) 4 技能型外部研修会へ多数参加	・イングリッシュイマージョンキャンププログラムの実施。 ・中学でのネイティブとの TT 習熟度別展開授業と高校でのオンライン英語授業実施 ・ネイティブ教

	(3)異なる文化風習の壁を越えて新たに挑戦する姿勢とコミュニケーション能力の育成	(3) ①留学生を活用した異文化理解や英語学習の取り組みの実施 ②ネイティブ教員を活用し、国際プログラム、生徒募集における生徒との交流の促進	(3) ・留学斡旋 ・トビダテ留学 Japan ・任意の海外研修プログラム利用者 ・中学各学年イマージョンキャンプの実施 ・初立キッズの実施	(3) ・留学斡旋実施 ・トビダテ留学 Japan に選出 ・任意の海外研修プログラム利用 ・中学高校各学年イマージョンキャンプを実施 ・初立キッズを実施	員の活用 ・留学生との交流機会の拡大 ・海外語学研修プログラムの推進
5 理科教育・課題研究教育の充実	(1)理科教育の充実	(1) ①大学入試を見据えた高校3年間の指導計画の見直し ②国公立大学受験に対応した科目指導の充実 ③立命館大学理系学部進学に対応した理科教育の充実	(1) ①②③とも教育課程の改訂 指導計画の完成 ・校内課題研究発表会の実施 ・学外課題研究発表会への参加 ・理系選択者数の増	(1) ・高校で新コースの設置(アドバンスト英数、グローバルI II III)とそれに伴う教育課程の改訂 ・中学3年で「課題研究」冊子完成 ・高校1年の内部生クラスで課題研究及び発表会の実施 ・理系選択者数 R コースで増加	・「理科学力向上プログラム」に基づく実験を中心とした授業改善 ・国公立大学受験に対応した改訂教育課程の実施 ・立命館大学理系学部進学に対応した理科教育の充実
6 生徒確保に向けた入学政策・入試業務の強化	(1)最新の情報に基づく入試部業務の推進 (2)女子及び理数系生徒の確保を目指す方策検討	(1) ①PDCAを導入し、正確なデータ分析と情報の集中管理 ②塾訪問の強化	(1) ①生徒獲得目標 ②塾訪問	(1) ①入学生徒数は中学で横ばい 高校では R コースの出願者が若干減少 ②塾訪問を多数実施	・女子及び理数系生徒の確保を目指す方策検討 ・中学校・高校別の塾訪問の強化 ・正確なデータ分析に基づく広報活動 ・入試部内の情報処理の効率化